

令和5年度第12回 市政懇談会（会議要旨）

日時	令和6年1月19日（金） 18時30分 ～ 19時30分
場所	厚東ふれあいセンター
テーマ	①少子化に対する北部地域への支援策について ②高齢化に対する北部地域への支援策について
出席者	<ul style="list-style-type: none"> ○ 篠崎市長 ○ 厚東地区代表者（4名） 厚東地区自治会連合会会長、厚東霜降会連合会会長、農業委員会地区協議会委員、厚東地区福祉委員会会長 ○ 二俣瀬地区代表者（4名） 二俣瀬地区コミュニティ推進協議会会長、二俣瀬地区自治会連合会会長、二俣瀬地区社会教育推進委員会会長、社会福祉法人アスワン山荘理事長 ○ 小野地区代表者（4名） 小野地区自治会連合会会長、小野地区振興対策委員会会長、小野地区コミュニティ推進協議会会長、おのっこ未来応援隊長 ○ 厚東ふれあいセンター、二俣瀬ふれあいセンター、小野ふれあいセンター、地域支援員、教育委員会、農業振興課、都市計画課、北部地域振興課、広報広聴課
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北部地区の高齢者は外出時の交通手段がない。厚東川中のスクールバス（通学時間外）を高齢者の通院や買い物に活用できないか。（厚東地区自治会連合会会長） ○ 厚東地区では今年度、デマンド交通を試験的に運行したが、予約方法などが難しく本稼働に至らなかった。（厚東地区福祉委員会会長） ○ 小野地区ではデマンド交通を運行しているが、利用時のルールが多く利用率が上がっていない。小野地区に民間タクシーを常駐して欲しい。（小野地区振興対策委員会会長） →各地区でデマンド交通を運行しているが、なかなかうまくいっていない。これまではデマンド交通の選択肢しかなかったが、今後は、中山間地域ではライドシェアなどの可能性が出てきたので、まずは国の動向を注視したい。また、他市では高齢者サービスを実施する社会福祉法人にサービス利用者以外も送迎してもらう事例もあるので、その仕組みも考えていきたい。スクールバスの活用については、検討していきたい。（市長） ○ 耕作放棄地が増えているが、所有者は農地を貸したくても借り手がない。また、防護柵が壊れても、高齢者が多く修理ができていない。（厚東霜降会連合会会長） ○ 個人で農業をするのは限界があるため集落営農が重要。スマート農業をいかにうまく活用するかが課題。現在、ドローンを活用して農薬の散布や上空からの農地の撮影をしているが、ドローンは維持にも費用を要するため支援して欲しい。（農業委員会地区協議会委員） ○ 禁漁区のためイノシシの被害がひどい。一晩で畑が掘り起こされてしまう。（二俣瀬地区コミュニティ推進協議会会長） ○ 自分は、新規就農者として資金も技術もなくゼロからスタートした。新規就農者にとっては、地域の方に水回りや鳥獣被害等も少ない、条件の良い農地を取得しやすい支援をしてもらえると、新規就農者の増加につながると思う。（おのっこ未来応援隊長）

→農地の貸し手と借り手の新規就農者のマッチングがうまくいっていないと感じている。地域と連携しながら市を主体とした支援に取り組みたい。また、市では認定農業者への支援を手厚く用意しており、スマート農業への支援は新規導入者を優先している。イノシシ駆除に対する補助金については、来年度から山口県内トップクラスの水準に拡充しており、防護柵設置についても、様々な助成を設けている。(市長)

- 介護事業者は人材不足が深刻であり、市には介護職の魅力の発信をお願いしたい。また、介護報酬は国が決めることであることは承知しているが、ヘルパー等が利用者宅に行くまでの移動費用が報酬に反映されていないため、市として支援をして欲しい。(社会福祉法人アスワン山荘理事長)

→中高生を対象に介護職への理解を深める授業を実施している。また、介護職に就いた人材への支援金も設けている。北部地域ならではの課題である移動費用の支援についても考えていきたい。(市長)

- 高校生がテスト期間中などで早く帰宅する時に、その時間帯にバスの便がないため、運行時間の見直しやタクシーの利用について検討して欲しい。特認校に通う子どもの保護者は、送迎にかかるガソリン代等の費用が負担になっている。また、小野小では子ども達が作った野菜が給食に出るため食育につながっている。今後も自校式の給食を継続して欲しい。(おのっこ未来応援隊長)

→高齢者の移動支援と同様、高校生の移動支援についてもライドシェアやスクールバスの活用について考えていきたい。特認校へ通う子どもの通学に係る費用については、元々通っていた学校区内を超える費用分を補助している。給食については、食育につながっていることは理解しているが、安定的で衛生的な給食を維持していくため、今後は配送式に切り替え統合する方向で整理している。(市長)

- 空き家が多く、住める状態なのか住めない状態なのか整理ができていない。地域の空き家所有者に対し、空き家の利活用について周知して欲しい。また、売り物件を取得し、北部地区に移住する人に対する支援はあるが、北部地区に移住を希望する人へのさらなる支援が欲しい。(おのっこ未来応援隊長)

→取得した家のリフォーム費用に対する助成については、個人の資産形成につながるため難しい。一方で、現在、北部地区においては、特認校に通学を希望する子どもの家族用に、お試し居住ハウスの設置準備を進めている。昨年12月の地方税法の改正で管理不全な空き家の固定資産税の住宅用地特例が解除されるなど、法整備が進んでいる。昨年設置した「空き家プラットホーム」を活用してもらい、空き家を流通させ、移住希望者が住居を確保できるようにしたい。さらに、他市の学校に通っている子どもが住民票を異動しなくても、宇部市の学校に通える仕組みづくりを考えていきたい。(市長)

- 空き家を貸したいが家財を処分する必要があるので、家財処分の費用を助成してもらえないか。(二俣瀬地区コミュニティ推進協議会会長)

→個人財産の処分費用を行政が負担することについては、市民の理解が得られず難しい。(市長)

- 小野小の旧体育館が解体されずに残っている。今後、活用しないのであれば、解体して欲しい。(小野地区振興対策委員会会長)

→状況を確認したい。(市長)

	<p>○ 「アクトビレッジおの」は素晴らしい施設であるが利用者が少ないと感じている。宿泊施設を増やせば利用者が増えるのではないか。(厚東地区福祉委員会会長)</p> <p>→「アクトビレッジおの」のキャンプ場の利用率は高く、もっと様々な用途で活用できていると思っている。実際に民間企業から活用方法について多くの提案を受けており、情報を整理して活用していきたい。(市長)</p>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ○ 厚東川中スクールバスを、中高齢者の通院や買い物の支援、高校生の通学のために活用できないか検討 ○ 農地の貸し手と借り手のマッチング支援について検討 ○ 小野小学校の旧体育館について状況を確認し、解体について検討 ○ アクトビレッジおのの利用者増に向けて検討